

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和4年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地	大分市高砂町2-33
		電話番号	097-533-4000
		ホームページ	https://emo.or.jp/
施設名	大分県立美術館(OPAM)	所在地	大分市寿町2-1
		電話番号	097-533-4500
		ホームページ	https://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	県の所管部課 (局・室)	企画振興部芸術文化スポーツ振興課
	所在地	大分市高砂町2-33		TEL : 097-506-2057
	指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日	※大分県立総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例	
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。	
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iichikoグランシアタ（大ホール1,966席）</li> <li>・ iichiko音の泉ホール（中ホール 710席）</li> <li>・ iichikoアトリウムプラザ</li> <li>・ リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室）</li> <li>・ 駐車場（295台）</li> </ul>	
使用料等	※終日利用の料金 ・ iichikoグランシアタ：284,000円～511,100円 ・ iichiko音の泉ホール：126,300円～227,400円 ・ iichikoアトリウムプラザ：5,250円～41,900円 ・ リハーサル室・練習室：3,570円～17,600円、映像小ホール：36,550円、 県民ギャラリー：9,400円～10,800円 ・ 会議室：13,750円～29,450円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円	
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）	

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	
事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供に関すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業。	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ</li> <li>・ 2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ</li> <li>・ 3階 展示室B コレクション展示室</li> <li>・ 屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時）</li> </ul>	

使用料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧料（コレクション展）：200円～300円</li> <li>・展示室A：9,420円～37,700円（終日）</li> <li>・展示室B：9,420円～37,700円（終日）</li> <li>・アトリウム：4,900円～19,300円（終日）</li> <li>・研修室：1,200円（1時間）</li> <li>・アトリエ：1,200円（1時間）</li> <li>・駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円</li> </ul>
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

#### 4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの 利用率の合計を2で除した数	令和元年度	87.0	81.2	93.3%
	令和2年度	87.0	42.7	49.1%
	令和3年度	87.0	64.0	73.6%
	<b>令和4年度</b>	87.0	79.0	90.8%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来館者数(人)	令和元年度	500,000	532,307	106.5%
	令和2年度	500,000	256,105	51.2%
	令和3年度	500,000	431,357	86.3%
	<b>令和4年度</b>	500,000	521,529	104.3%

#### 5. 施設の利用状況

##### 【県立総合文化センター】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	累計
	令和元年度	17,269	16,915	18,358	18,129	23,584	26,064	
令和2年度	0	0	275	4,811	2,216	7,069		
令和3年度	4,951	418	8,430	9,444	5,791	9,293		
<b>令和4年度</b>	6,345	11,713	12,245	13,235	8,092	16,789		
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
令和元年度	17,369	22,155	18,911	6,806	17,824	298	203,682	
令和2年度	7,456	12,129	5,764	3,264	8,901	9,653	61,538	
令和3年度	17,336	16,091	16,929	4,761	4,473	12,879	110,796	
<b>令和4年度</b>	19,035	21,408	10,212	8,249	16,490	20,030	163,843	

##### 【県立美術館】

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	累計
	令和元年度	47,793	48,692	38,894	50,431	82,513	44,617	
令和2年度	3,331	4,432	9,068	17,293	37,820	27,679		
令和3年度	25,379	22,078	24,119	43,852	61,353	30,817		
<b>令和4年度</b>	30,405	34,791	21,064	20,901	39,655	24,005		
年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
令和元年度	51,327	40,787	43,737	41,850	41,245	421	532,307	
令和2年度	28,119	19,367	31,783	23,133	24,034	30,046	256,105	
令和3年度	36,844	32,099	34,598	35,347	33,068	51,803	431,357	
<b>令和4年度</b>	35,324	38,711	92,751	118,170	31,233	34,519	521,529	

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	<p>iichiko総合文化センター</p> <p>①施設利用者アンケート(令和5年3月実施):518団体(個人を含む)うち173団体回答(回収率33.0%)</p> <p>②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施</p> <p>③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6か所)による意見の受付</p> <p>大分県立美術館</p> <p>①施設利用者アンケート(令和5年3月実施):71団体うち48団体回答(回収率67.6%)</p> <p>②施設来館者アンケート(随時):館内3カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収</p>
	実施結果	<p>iichiko総合文化センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると85.5%となり、利用者の満足度は高い。</li> <li>施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」「知名度が高い」などである。</li> <li>次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると83.2%であり、高い再利用意向を得ている。</li> <li>職員の対応について、「やや満足」以上が72.3%、「普通」を含めると96.6%と高い評価であった。</li> </ul> <p>大分県立美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると100%となり、極めて高い評価を頂いた。</li> <li>施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「知名度が高い」「施設・設備が充実」「サービスが良い」などである</li> <li>次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると95.9%であり、非常に高い再利用意向を得ている。</li> <li>職員の対応について、「やや満足」以上が97.9%と、非常に高い評価を頂いた。</li> </ul>
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
(センター)地下駐車場のエレベーターホール出入口に段差があり、転倒のおそれがある。		出入口をスロープ化した。
(センター)練習室の貸出用バレエシートがテープ糊跡など汚れている。		貸出用バレエシートの洗浄を行った。
(センター)グランシアタ・音の泉ホールの楽屋廊下に無料のロッカーを置いた欲しい。		令和5年度中の無料ロッカー設置計画を策定した。
(美術館)十分なコロナウイルス対策をして欲しい		これまで実施してきた、タブレット型サーモカメラの導入、飛沫防止シートや消毒液の設置、等に加え、複数人の同時検温が可能なモニター型AIサーモカメラを1台追加設置し、来館者の感染症対策の強化と利便性向上を図った。
(美術館)催事の情報が知りたい		館内にデジタルサイネージ6台を新規設置し、本日の催事情報や、今後の企画展情報などについて、お客さまに情報が届きやすくなるよう改善した。
(美術館)企画展をより楽しみたい		美術鑑賞だけではなく、食でもお客さまに楽しんでいただけるよう、5つの企画展と連動した6つの期間限定コラボメニューを提供した。 ミュージアムショップではお客さまの希望に応え、企画展の関連商品や県出身作家、県内企業の商品を積極的に販売。作品販売の場としても活用した。

7. サービス向上に係る主な取組内容

<p>サービス提供体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① センターと美術館を一体的に管理するスケールメリットを発揮できるよう、総務事務等の一元処理を行うとともに、警備、清掃、設備管理業務等についても共通の専門業者に委託し、クオリティ・コストの両面でレベルの高い一元管理を行った。</li> <li>② センター及び美術館のインフォメーション業務を同一業者に委託し連携強化を図り、センターと美術館の情報を共有し相互案内するとともに、美術館で開催される企画展チケットを販売することにより、施設全体のイメージアップと利用者の利便性の向上を図った。</li> <li>③ センターでは、貸館利用者の利便性向上のため施設予約システムを改修し、ネット予約や支払いのキャッシュレス対応などの機能を追加し、運用を開始した。</li> <li>④ 年間広報計画を策定し、広報誌(季刊の総合情報誌)、イベントカレンダー、財団ホームページ、SNS、メールマガジンなどの自主広報媒体を通じた広報を積極的に行った。</li> <li>⑤ 大分県芸術文化友の会びびにおいて社会人向けに西洋音楽や世界古代文明などに関する教養講座を計5回開催するとともに、「感謝のタベ」の開催や試行的にアウトリーチアーティストを派遣するなど、サービス向上を図った。</li> <li>⑥ 会員限定の動画配信サイト「びびVision」において、法人会員向け芸術文化教養講座や創作舞台「ムジカと生きる」などの公演の動画を掲載した。</li> <li>⑦ びび会員にセンター及び美術館事業についてのアンケートを実施し、美術館企画展は西洋画や日本画などのニーズが高いことから、「住友コレクション名品展」や「楽しむ近世絵画」を次年度に計画するなど会員のニーズを反映した。</li> <li>⑧ 駐車場については、センターと美術館それぞれの駐車状況に応じて相互利用を前提とした誘導を行った。</li> <li>⑨ 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や延期が生じる中で、休館日の臨時開館や利用時間の早朝・深夜等の延長に柔軟に対応するなど、施設の利用促進を図った。また、やむなく催事日程を変更せざるを得なかった利用者には希望日の確保に柔軟に対応し、できる限りの便宜供与を図った。</li> <li>⑨ 美術館の施設の有効活用として、空気環境の安定する4月30日、5月1日、3日、4日、5日の5日間、ガラス水平折戸を開放した。</li> <li>⑩ 5月及び8月に開催し来館者から好評であった建築に関するバックヤードツアーについて、10月から毎月第一日曜日の定期開催を開始した。家族連れを中心に参加者も多く、美術館の新たな魅力を県民と共有することができた。</li> <li>⑪ 貸展示室の施設利用者への便宜供与として、貸出可能施設の空き状況をホームページ等で公開するなど、きめ細やかな情報提供を行なうとともに、利用者と事前打ち合わせを十分に行い、県民の芸術文化活動の場として円滑な施設利用に努めた。</li> </ul>
--------------------	--

ホール機能の優位性を活かした芸術性やオリジナリティの高い自主公演の開催と、利用者に親しまれるiichiko総合文化センターづくり

イベント等の充実(センター)

① 県民ニーズを捉えたバランスの良い年間ラインナップの構築

- ・令和4年度の公演は、センターの特長を生かした①大規模公演(オーケストラ、オペラ、バレエのうち1つ)、②西洋音楽発祥の地プロジェクトに関わる公演、③親子で楽しめる公演、④美術館の企画展と連携した公演の4つのコンセプトに基づき実施した。
- ・具体的には、オーケストラ、室内楽を中心に声楽や伝統芸能など幅広いジャンルにおいて質の高い13公演を自主企画により主催するとともに、バレエやミュージカルなど共催12公演を実施した。
- ・大規模公演では、NDR北ドイツ放送フィルハーモニー交響楽団を招聘し、9年ぶりとなる海外オーケストラ公演を行った。ペートーベンプログラムの演奏には、ドイツオーケストラの表現力、素晴らしさを讃える声が寄せられた。
- ・「西洋音楽発祥の地プロジェクト」の集大成及び、「東アジア文化都市2022大分県」閉幕行事として、県民アーティスト参加による全てがオリジナルの創作舞台「ムジカと生きる」を開催し、観客を魅了した。また「西洋音楽発祥の地」関連公演として、バッハ・コレギウム・ジャパン、小林道夫チェンバロリサイタル等の公演を実施した。
- ・親子で楽しめる企画として、日生劇場「NHKみんなの歌ミュージカル リトル・ゾンビガール」、こんにやく座オペラ「森は生きている」を上演し、親子が知っているなじみのある歌とともにストーリーが展開する公演を実施した。
- ・美術館の企画展「河北秀也のiichiko design」展と連携してビリーバンバンコンサートを開催し好評を博した。
- ・チケット管理システムについては、老朽化した販売システムを更新し、ネット予約方法の追加や支払い方法のキャッシュレス化など利便性向上を図った。
- ・公演の開催に当たっては、全国公立文化施設協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、観客の手指消毒や検温、連絡先の記入等を徹底するとともに、必要に応じて出演者やスタッフ等関係者のPCR検査等を実施するなど、観客、出演者、スタッフ等を含め、引き続き徹底した感染防止に努めた。

② 地元アーティストや芸術団体等と協働した県内芸術レベルの向上に資する公演制作

- ・創作舞台「ムジカと生きる」について、総合監督・演出の穴井豪の指導の下、NPO法人大分県芸振の会員を中心としたアーティストが令和4年1月から11月まで40回に及ぶ稽古を重ね、大観衆の前でその成果を披露した。
- ・また「アーティスト・イン・レジデンス」として大分県出身やゆかりのある若手音楽家を招いてコンサートを実施した。演奏曲を仕上げていくリハーサルも公開し、若手アーティストの新たなファンを獲得することに繋がった。

③ 全国に発信できる公演や地元芸術団体等への支援

- ・全国に発信できる公演として、来日したNDR北ドイツ放送フィルハーモニー交響楽団やバッハ・コレギウム・ジャパンを招聘した。また、「日本フィルハーモニー交響楽団大分公演」、「おおいた第九を歌う会」など、県内音楽団体の公演に共催して支援した。

④ 新たなファン層の拡大に資する普及啓発事業の充実

- ・初心者でも代表的な舞台芸術に気軽に親しめるように、青島広志氏の「おしゃべりオペラティックコンサート」をはじめ、チェンバロやチェロ、古典芸能のレクチャー、またミュージカルのワークショップを実施した。
- ・センターから離れた地域の方々にクラシック音楽の生演奏の魅力をお届けするアウトリーチ活動を展開し、小学校等に計17回の活動を行った。
- ・社会人向けに、西洋音楽史講座を2回開催しホール来場者の増加を図った。

県民に親しまれる大分ならではの特色ある美術館づくり

- ① 「出会い」をテーマにした新たな視点に基づく県民ニーズを捉えた展覧会の開催・誘致
- ・多様なジャンルをバランスよく企画し6つの展覧会を開催した。
  - ・自主企画展として、4～5月には大分県立美術館初のファッションの展示となる「コシノジュンコ『原点から現点』」、6～8月は現代アートの100年を巡る「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年 ハロー、アート！世界に夢中になる方法」、11～1月には県立美術館オリジナルの企画として、日本文化が誇る“美”の世界を紹介する「大本山 相国寺と金閣・銀閣の名宝」、2～3月はiichiko designの全貌の紹介とともに河北秀也のデザイン思考についても掘り下げる「イメージの力 河北秀也のiichiko design」を開催した。
  - ・メディア各社との共催により、2月～4月には「庵野秀明展」を開催し、多くの人々が美術館に訪れ展示を楽しむ機会を提供した。
  - ・国立科学博物館などとの連携により、12月～1月には自然史系とポケモンのコラボレーションによる「ポケモン化石博物館」を開催した。
  - ・日本博物館協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、検温、連絡先の記入、入場制限等を徹底するとともに、必要に応じてスタッフ等の関係者のPCR検査を実施するなど徹底した感染防止対策に努めた。
- ② 大分の伝統と文化や、所蔵品の新たな魅力を紹介するコレクション展の開催とその展開
- i 所蔵作品の展示
- ・2か月に1回程度、統一したテーマを設けて展示替えを行い、所蔵作品の魅力を最大限引き出すようなコレクション展示を4回実施した。4月～7月は「コレクションの精華」、7月～9月は「冒険する美術一色・形・素材への挑戦」、9月～11月は「生命の輝きを求めて」、2月～3月は「造形紀行「デザイン」の楽しみ」を開催した。
  - ・開催中の企画展半券提示でコレクション展を無料で鑑賞できることとし、入場者の増加を図った。
- ii 所蔵作品の管理
- ・県の所蔵作品を財産台帳及び情報システムのデータベースにより適正に管理するとともに、展示・保存環境を適正に維持するため、収蔵庫、展示室等の日常的な空調管理、記録を徹底した。
  - ・地震や火災に備え、免震装置や防火シャッター等の定期的な管理を行い、所蔵作品の安全対策に万全を期した。
- iii 美術品収集
- ・県が行う美術品等の収集に対し、当財団として大分県美術資料収集委員会や大分県立美術館美術資料評価委員会に専門的な観点から必要な調査等を県と一体となって実施した。(令和4年度実績:購入3点、寄贈20点、寄託55点)
- iv 美術品の調査及び研究
- ・美術家や美術品、保存修復、展覧会企画、教育普及、県内及び県ゆかりの美術・工芸に関する調査研究(大分市出身の吉村益信など)を県と一体となって行うとともに、その成果を収集事業やコレクション展に反映させるなど、職員の資質向上も含めた美術館の企画運営に活かした。
  - ・「令和3年度年報」及び「紀要第7号」の編集や自主企画展「コシノジュンコ『原点から現点』」や「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年 ハロー、アート！世界に夢中になる方法」、「大本山 相国寺と金閣・銀閣の名宝」の図録の編集を行った。
- ③ 美術鑑賞の機会を提供するための地域巡回展の実施
- ・10月に臼杵市歴史資料館と臼杵市観光交流プラザを会場に「地域美術館 in 臼杵市 臼杵の美術家や風土～大分県立美術館コレクションを中心に～」を開催し、28点の作品を展示し、1,485名が鑑賞した。
  - ・「地域美術館in臼杵市」に関連して、臼杵市歴史資料館に招いて鑑賞会プログラムを行う「地域美術館体験講座」を開催し、臼杵市内の支援学校・小中学校の19校が参加した。
- ④ アトリウムやカフェ・ミュージアムショップを中心とした、多様な価値観を提示する交流拠点としての取組を推進
- i アトリウム等の活用
- ・「コシノジュンコ『原点から現点』」では、ステージを組み、コシノ氏の衣装をまとった和太鼓パフォーマンスグループTAOのライブなどを実施した。また、「ポケモン化石博物館」ではフォトスポットにもなったポケモンの原寸大模型の設置、「イメージの力 河北秀也のiichiko design」では、三和酒類特別ブースを設置し、試飲会や空き瓶の活用方法の紹介エリアを設けるなど、展覧会に応じて様々なイベントを開催した。
  - ・「コシノジュンコ『原点から現点』」をはじめ、企画展開催時はアトリウムに特設のオリジナルグッズショップを設けるなどミュージアムショップと連携し、美術館全体の賑わいを創出した。
  - ・企画展関連展示だけに留まらず、障がい者アートのイベントや各種普及啓発系のポスターコンクールの実施など、幅広い分野による多様な催事を年間通じて実施した。
  - ・アトリウムの利用計画について事前に利用者調整を行ったうえ、空間を最大限に活用できるよう、ショップ、カフェのモバイル機能を活かしたレイアウト変更を実施した。
- ii 情報コーナー
- ・美術に関する図書や情報等を紹介する「情報コーナー」において、蔵書4,000冊を有効活用するなど、企画展の内容等に応じて3、4か月に1回、書籍の入れ替えを行い、入館者へ魅力ある美術情報の提供に努めた。
- iii ミュージアムショップ
- ・株式会社千代田に委託し、企画展と連動したグッズの企画・販売をしたほか、美術館の開館に合わせた営業及び大規模イベントに合わせた臨機応変な営業にも努めるなど、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。
  - ・令和4年度末をもって、委託事業者との契約期間が満了となることから、令和5年度～10年度までの委託業者を公募により選定した。その結果、新たな事業者へ委託することとなり、来年度以降に向けた管理・運営について、新商品の開発に向けた協議を行った。
- iv ミュージアムカフェ
- ・社会福祉法人博愛会に委託し、県産農林水産物をふんだんに使った質の高いメニューの提供や、企画展や季節に応じた定期的な新規メニューの開発を行い、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。

イベント等の充実(美術館)

## 8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収入額(A)		757,169	763,973	760,512	788,714
内 訳	県からの委託料	453,114	456,386	457,272	515,838
	利用料金	300,229	157,291	213,710	258,284
	雑収入	3,826	150,296	89,530	14,592
支出額(B)		764,110	763,973	761,819	807,642
内 訳	人件費	198,087	200,145	195,938	209,113
	維持管理費	2,677	1,732	2,341	2,014
	事業費	538,034	536,552	537,996	570,971
	iichikoパートナーシップ履行 事業費	24,222	24,444	24,444	24,444
	サービス改善提案事業費	1,090	1,100	1,100	1,100
収支差額(A-B)		-6,941	0	-1,307	-18,928

## 9. 施設使用料等の収入状況

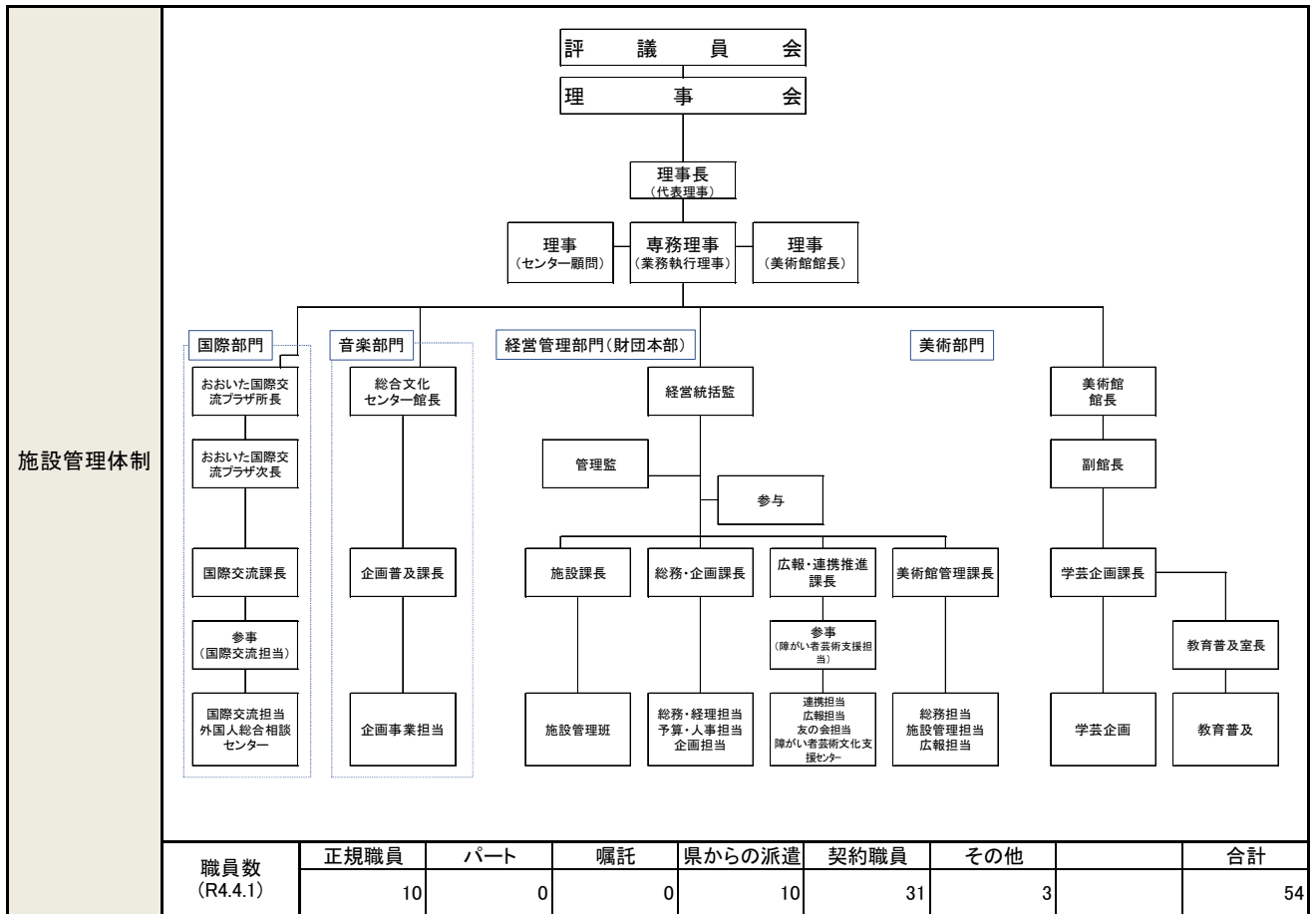
【県立総合文化センター】

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和元年度	35,382	22,773	20,734	20,453	23,727	22,264	
	令和2年度	18,040	529	4,138	9,002	8,605	12,278	
	令和3年度	19,905	8,405	9,845	13,412	18,110	15,579	
	<b>令和4年度</b>	<b>24,317</b>	<b>15,852</b>	<b>17,205</b>	<b>21,098</b>	<b>14,464</b>	<b>19,058</b>	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和元年度	24,098	19,132	17,376	17,399	14,766	7,689	245,793
	令和2年度	10,957	10,896	11,382	11,127	7,145	13,540	117,639
	令和3年度	13,983	18,129	16,907	10,875	4,794	15,250	165,194
	<b>令和4年度</b>	<b>21,697</b>	<b>18,817</b>	<b>17,228</b>	<b>14,047</b>	<b>10,627</b>	<b>17,472</b>	<b>211,882</b>

【県立美術館】

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	令和元年度	7,934	3,013	2,213	4,182	7,899	7,004	
	令和2年度	3,096	-114	629	1,307	7,443	2,724	
	令和2年度	5,890	800	3,081	5,034	2,683	1,494	
	<b>令和4年度</b>	<b>4,924</b>	<b>2,330</b>	<b>4,076</b>	<b>1,067</b>	<b>2,014</b>	<b>1,799</b>	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和元年度	2,919	2,379	9,088	2,627	2,820	2,357	54,435
	令和2年度	5,697	1,807	2,605	3,741	4,920	5,797	39,652
	令和3年度	5,588	2,202	2,948	2,156	2,252	14,388	48,516
	<b>令和4年度</b>	<b>7,072</b>	<b>1,998</b>	<b>3,764</b>	<b>3,237</b>	<b>8,274</b>	<b>5,846</b>	<b>46,401</b>

10. 指定管理者の管理体制





1.1. 適正な管理運営に係る主な取組内容

<p>職員の資質・能力の向上</p>	<p>① 財団主催の研修会のほか、外部で開催されるものも含めた各種研修会を活用することにより各職員の職務職責に応じた能力を養成した。</p> <p>② 「職員面談」や「能力評価」「業績評価」を実施して職員の努力や成果を反映することで職員の士気向上を図った。</p> <p>③ 各所属における業務内容を精査した上で、「職員面談」や「能力評価」「業績評価」により、職員の適正配置や効率的な組織づくりに努めた。</p> <p>④ 衛生委員会を定期的に開催するとともに、職員の定期健康診断を実施した。</p> <p>⑤ 「働き方改革」に対応した労働環境の整備として「出退勤管理システム」を活用して、超勤の抑制及び有給休暇の取得推進に努めた。</p> <p>⑥ 県の規程改定に準じて、正規職員の定年延長について財団規程の改定を行うとともに、高齢者雇用安定法の就業上限年齢の改定に基づき、無期雇用契約職員の雇用を最長68歳から70歳に引き上げ、人材確保を図った。</p>
<p>防災に関する研修・訓練</p>	<p>① マグニチュード8クラスの東南海・南海地震発生時の切迫性が指摘される中、図上訓練や新人職員研修を行うとともに、職員以外の委託業者やボランティア等関係者も参加し、実態に即した防災訓練を実施した。また、センターでは複合施設管理者による合同訓練や市内中学生を利用者役とした訓練も実施した。</p> <p>② 併せて、火災や台風などの自然災害をはじめ、不審者(物)、感染症など、様々なリスクに迅速かつ的確に対応するため、危機管理体制を整えるとともに、日頃から危機管理意識を高められるよう職員に対する研修を行った。</p> <p>③ 大分市消防局救急隊を招いて、総合文化センター、美術館職員が参加した合同救急救命講習を実施した。</p> <p>④ 昨年度に引き続き、新たに職員1名が防災士資格を取得するなど、更なる危機管理体制の強化に努めた。</p>
<p>安全対策等</p>	<p>【iichiko総合文化センター】</p> <p>① 的確な保守点検により、施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との協力体制のなかで、改修計画に基づく電気室設備・空調設備・給湯設備の改修工事を行った。</p> <p>② 令和5年度から県が実施するホールの耐震天井改修工事について、県と協議を行い、事前準備を進めた。</p> <p>③ 備品台帳により備品を適切に管理するとともに、不要備品を処分した。</p> <p>④ 植栽等の維持管理業務については、ホール、アトリウムに配置した自然木への灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を行い、適正に管理した。</p> <p>⑤ 清掃業務については、施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を日常的に行った。</p> <p>⑥ 保安警備業務については、防災センターを中心とした保安体制により、施設内の秩序を維持し、利用者の安全を守った。</p> <p>【県立美術館】</p> <p>① 的確な保守点検により施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との連携により、不具合箇所の確認を継続して行い、安定した展示環境、収蔵環境の確保に努めた。</p> <p>② 備品については、備品台帳により、適切に管理した。</p> <p>③ 植栽等の維持管理業務については、美術館の美観維持のため、定期的な植栽等の管理を行った。</p> <p>④ 清掃業務については、美術館としての快適な空間、適切な収蔵環境や展示環境を保つため、高い仕様の清掃業務を行うほか、総合的有害生物管理(IPM=Integrated Pest Management)により、生物的防除、化学的防除、物理的防除等を徹底した。特に、美術館管理を行なう上で関係者全員の意識統一が必要となるIPMIについては、財団だけでなく、警備等の委託業者も含めて一体的な研修を実施した。</p> <p>⑤ 保安警備業務については、夜間の機械警備に加え、24時間常駐の警備員を配置することで、徹底した警備体制を整え、事故、盗難等を未然に防いだ。</p> <p>【主な新型コロナウイルス感染症対策】</p> <p>センターでは、全国公立文化施設協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、観客の手指消毒や検温、連絡先の記入等を徹底するとともに、必要に応じて出演者やスタッフ等関係者のPCR検査等を実施するなど、観客、出演者、スタッフ等を含め、引き続き徹底した感染防止に努めた。</p> <p>美術館では、日本博物館協会のコロナウイルス感染拡大防止ガイドライン等に基づき、検温、連絡先の記入、入場制限等を徹底するとともに、必要に応じてスタッフ等の関係者のPCR検査を実施するなど徹底した感染防止対策に努めた。</p>